

平成26年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町教育委員会中学校生徒の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用及び小問ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。

■ 調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立中学校2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

- 平成26年4月22日（火）

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

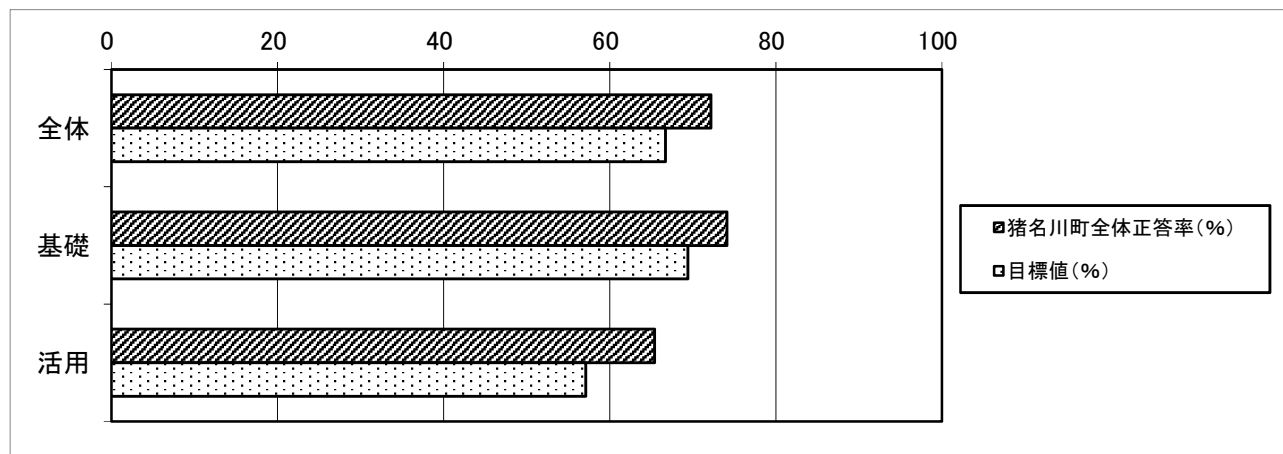
		町全体 正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差	受験者数
中学校 2年生	国語	72.2	66.7	5.5	343
	数学	66.7	58.6	8.1	343
	英語B	69.0	61.1	7.9	343

- 町全体の正答率は、国語・数学・英語共に目標値を上回っており、良好である。

■ 中学校2年生【国語】

(1) 基礎・活用正答率

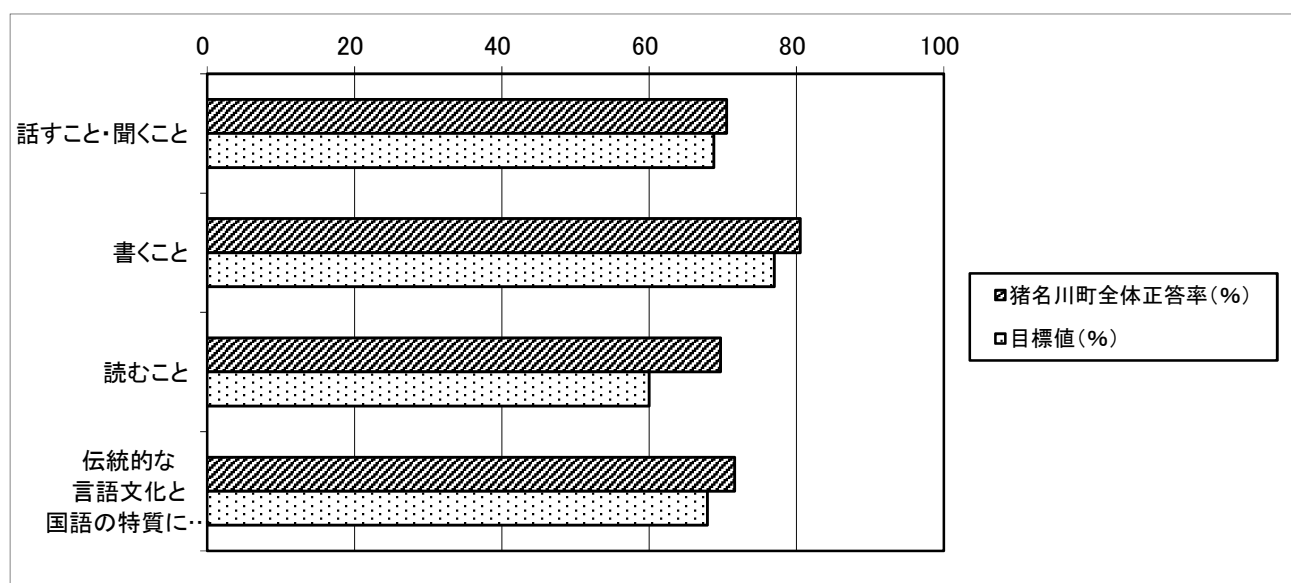
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率(%)	72.2	74.1	65.4
目標値(%)	66.7	69.4	57.1
目標値との差	5.5	4.7	8.3



- 基礎・活用共に目標値を上回っており、良好な状態にある。

(2) 領域別正答率

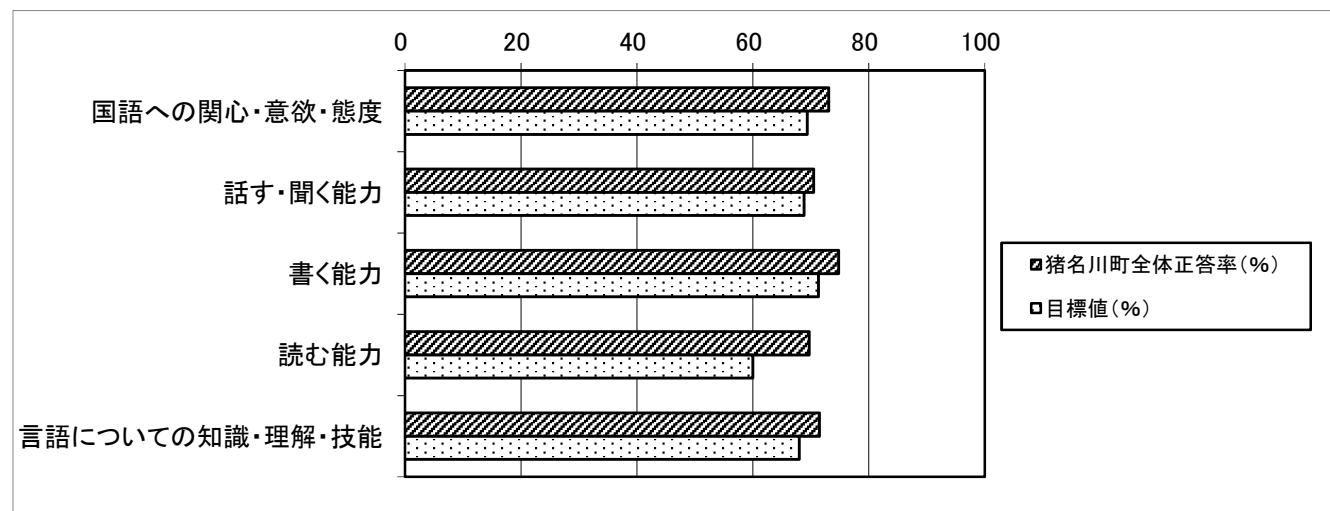
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
猪名川町全体正答率(%)	70.5	80.5	69.7	71.6
目標値(%)	68.8	77.0	60.0	67.9
目標値との差	1.7	3.5	9.7	3.7



- 領域別に見ると、全ての項目で目標値を上回っており、良好である。特に、「読むこと」の領域で大きく目標値を上回っている。ただし、文法・語句に関する知識においてやや課題がある。

(3) 観点別正答率

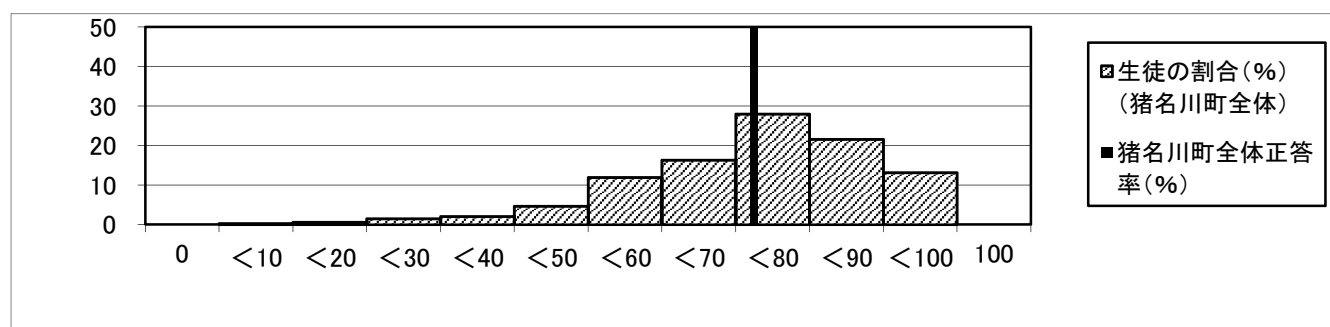
	猪名川町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
国語への関心・意欲・態度	73.1	69.4	3.7
話す・聞く能力	70.5	68.8	1.7
書く能力	74.8	71.3	3.5
読む能力	69.7	60.0	9.7
言語についての知識・理解・技能	71.5	68.0	3.5



- 観点別に見ると、全ての観点で目標値を上回っており、良好である。中でも「読む能力」が目標値を大きく上回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.3	0.6	1.5	2.0	4.7	12.0	16.3	28.0	21.6	13.1	0.0



- 町全体で正答率80%以上の生徒が34.7%と、昨年度よりは大幅に減少したものの、比較的良好な状況である。また、正答率50%未満の生徒は9.1%であり、昨年度より増加した。上位層が減り、下位層が増える傾向にある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3(2)

【文法・語句に関する知識】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	53.9	70.0	▲ 16.1	78.9	▲ 25.0
出題のねらい	単語について理解している。				
対策	文がいくつの単語からできているかを答えさせる問題である。文節や単語そのものについて十分に理解していれば、文を単語に分けることができる。文を文節に分け、さらに単語に分けていくことを形式的に指導するのではなく、自立語と付属語の大別や、品詞の分類等、それぞれの単語の性質や働きも含めて理解させることが大切である。				

大問4(1)

【説明文の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	43.1	35.0	8.1	36.2	6.9
出題のねらい	文章の展開に即して内容を捉えることができる。				
対策	説明文については、段落ごとの要点を押さえ、それらのつながりを意識して読む指導を行う必要がある。文章の内容を正確に読み取っているかを確認するためには、簡単な絵や図を描かせたりすることが有効であり、そうすることで、自分の先入観や認識の誤りに気付かせることができる。				

大問6(3)

【2つの資料の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	56.0	55.0	1.0	63.6	▲ 7.6
出題のねらい	2つの資料を正しく読み取り、欠けている情報を見つけることができる。				
対策	本問では、「部活動見学会」が何のために行われるのかという目的を押さえておく必要がある。その上で、自分が見学する立場の1年生なら、どのような情報が必要であるかといった相手意識を持って〈メモ〉の項目を見ていくと、どの場所で部活動をしているかという情報が欠けていることに気付く。このように「話すこと」「書くこと」による情報の発信に際して、目的意識、相手意識、場面意識が基本であることをしっかり理解させ、これらを活用することができるような言葉の力を身に付けさせたい。				

大問7

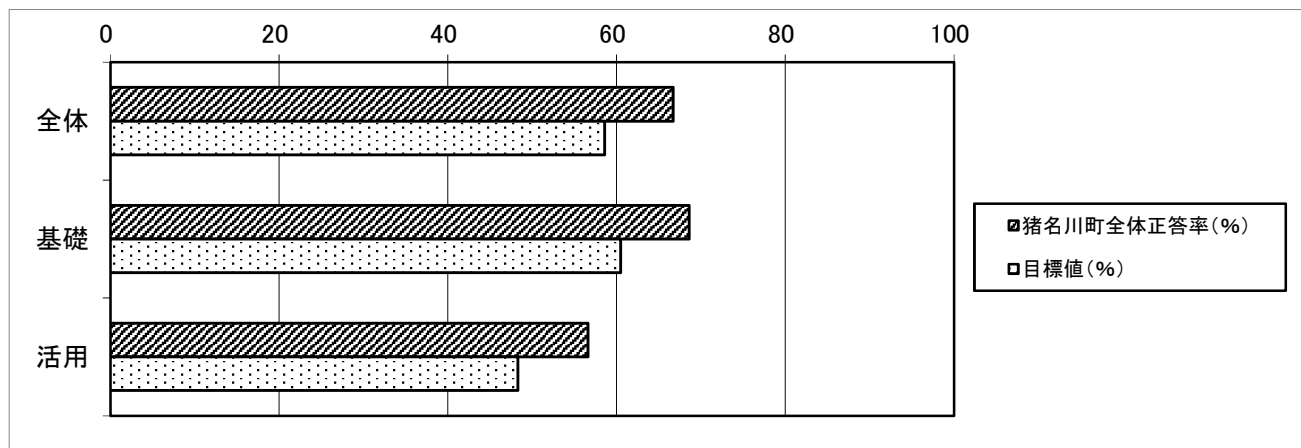
【作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	69.8	70.0	▲ 0.2	74.2	▲ 4.4
出題のねらい	3段落構成で文章を書くことができる。				
対策	文章を3段落構成で書くことを見る問題である。ここでは、第一・第二段落に、「AとBのポスターの違い」、第三段落に、第一・第二段落で書いたことを踏まえて、AとBではどちらが効果的と言えるか、「自分の考え」を書くことが求められている。3段落構成にはいくつかのパターンがあるので、書く練習を繰り返し行い、基本的な書き方に習熟させる必要がある。				

■中学校2年生【数学】

(1) 基礎・活用正答率

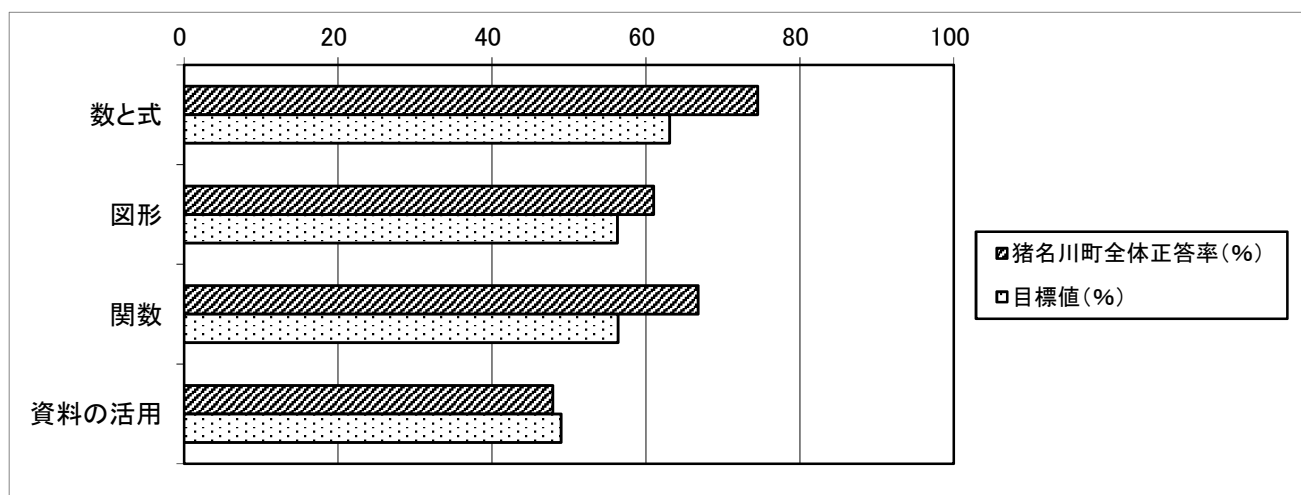
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率(%)	66.7	68.6	56.6
目標値(%)	58.6	60.5	48.3
目標値との差	8.1	8.1	8.3



- 基礎・活用共に目標値を上回っており、たいへん良好な状態にある。

(2) 領域別正答率

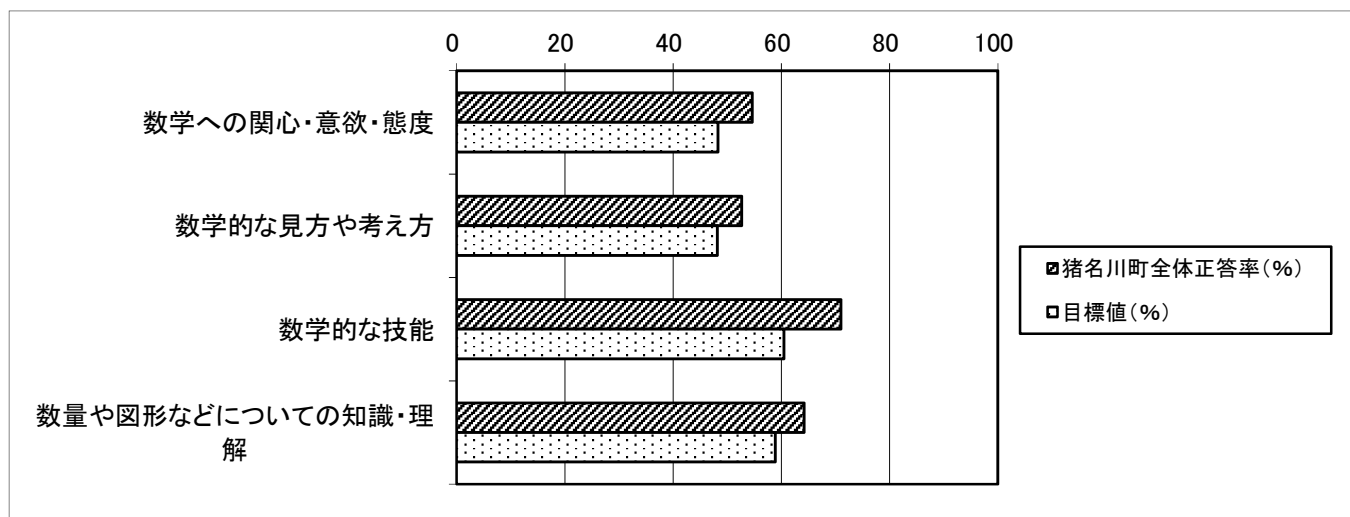
	数と式	図形	関数	資料の活用
猪名川町全体正答率(%)	74.5	61.0	66.8	47.9
目標値(%)	63.1	56.3	56.4	49.0
目標値との差	11.4	4.7	10.4	▲ 1.1



- 領域別に見ると、「数と式」「関数」で大きく目標値を上回っている。また、「図形」も目標値を上回っており、良好である。
しかし、昨年度から課題であった「資料の活用」については、目標値を下回っている。中でも、「資料の散らばりと代表値」の問題で、資料に極端な数値がある場合の代表値について理解することに課題がある。

(3) 観点別正答率

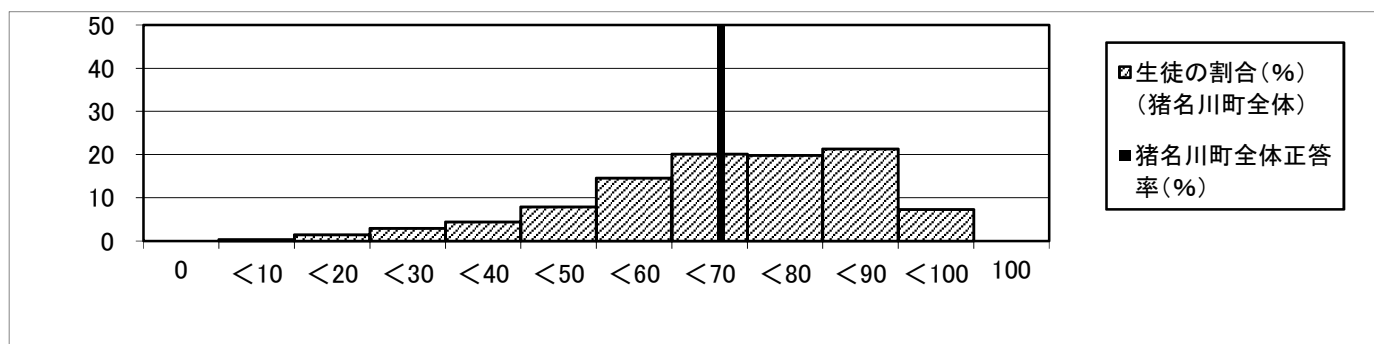
	猪名川町全体正答率(%)	目標値(%)	目標値との差
数学への関心・意欲・態度	54.6	48.3	6.3
数学的な見方や考え方	52.7	48.2	4.5
数学的な技能	71.0	60.5	10.5
数量や図形などについての知識・理解	64.2	58.9	5.3



- 観点別に見ると、全ての観点で目標値を上回っており、良好である。中でも「数学的な技能」が目標値を大きく上回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率(%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合(%) (猪名川町全体)	0.0	0.3	1.5	2.9	4.4	7.9	14.6	20.1	19.8	21.3	7.3	0.0



- 町全体で正答率80%以上の生徒が28.6%、正答率が50%未満の生徒は16.5%と、昨年度とほぼ同程度で良好な状況である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問9

【比例・反比例】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	57.4	60.0	▲ 2.6	55.2	2.2
出題のねらい	比例の関係は、比例定数がどのような時に成り立つかを理解している。				
対策	主な誤答の原因としては、比例の関係、又は比例定数の意味を理解していないことなどが考えられる。 $a > 0$ 、 $a < 0$ というときには、分かりやすい具体的な数を a に当てはめて考えればよいことを指導する。例えば、比例定数を2と-2に決めて x と y の表をつくり、 x の値を2倍、3倍、4倍……にしたとき、 y の値が2倍、3倍、4倍……になるかどうかを調べさせるとよい。				

大問17(2)

【空間図形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	52.2	55.0	▲ 2.8	63.2	▲ 11.0
出題のねらい	球の体積を求める式を選ぶことができる。				
対策	球の体積については、球又は半球に入れた水を円柱（底面の直径および高さ＝球の直径）に移す実験を通して「半球の体積＝ $1/3 \times$ 円柱の体積」、「球の体積＝ $2/3 \times$ 円柱の体積」の関係を見いだすなど、量感を育む指導を行いたい。その上で、円柱の求め方を基に「球の体積＝ $4/3 \times \pi \times r$ の3乗」の式をつくり、公式を理解できるようにしたい。球の表面積や円錐の体積についても同様に、実験等を通して、実感を伴った理解を図ることが大切である。				

大問20

【資料の散らばりと代表値】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	28.3	40.0	▲ 11.7	38.2	▲ 9.9
出題のねらい	資料に極端な数値がある場合の代表値について理解している。				
対策	平均値、中央値（メジアン）、最頻値（モード）については、各用語の意味を確認するとともに、具体例を取り上げて確認することが大切である。例えば、度数の少ない簡単な資料で、本問と同じようにかけ離れた数値の入ったものを用いて、実際に平均値、中央値、最頻値を生徒に求めさせ、その結果について考察させるとよい。				

大問22(1)

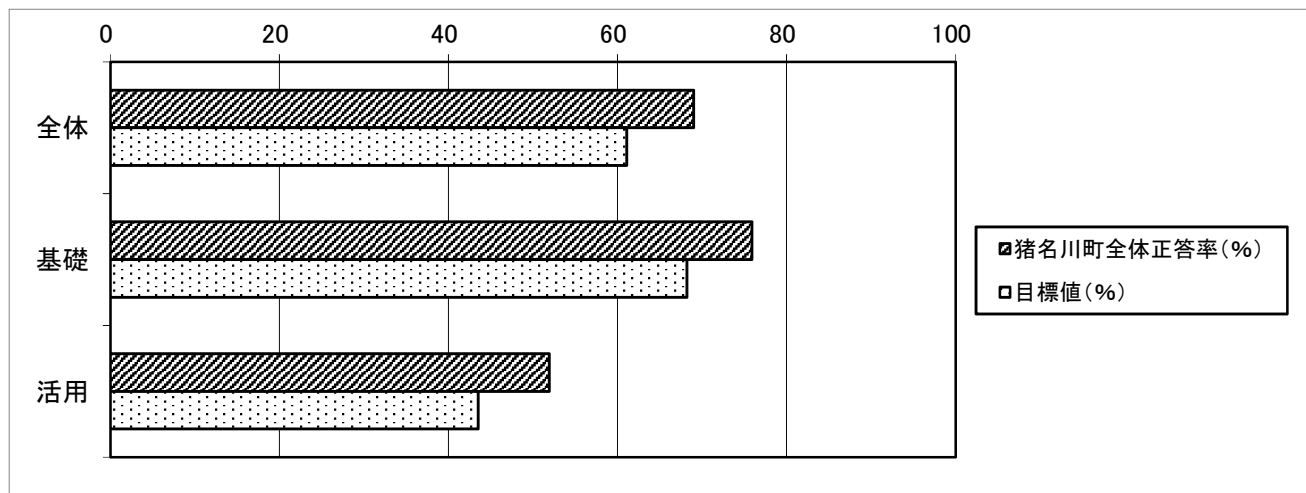
【正の数・負の数】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	60.6	60.0	0.6	53.5	7.1
出題のねらい	目標の数との差を正負の数で表した表から、最大の数と最小の数の差を求めることができる。				
対策	正負の数の利用について復習する必要がある。基準となる数が数値としては示されていないが、表の数値は花飾りを1日に作る目安の数との差で、基準より多いときに正の数、少ないときに負の数で表していることを確認する。また、作った数が一番多い日と一番少ない日の差を答えることから、最大の数＋6（3日目）から最小の数－9（2日目）を引けばよいことを確認する。その際、 $(+6) - (-9)$ の符号に注意して計算するよう指導することが大切である。				

■ 中学校2年生【英語B】

(1) 基礎・活用正答率

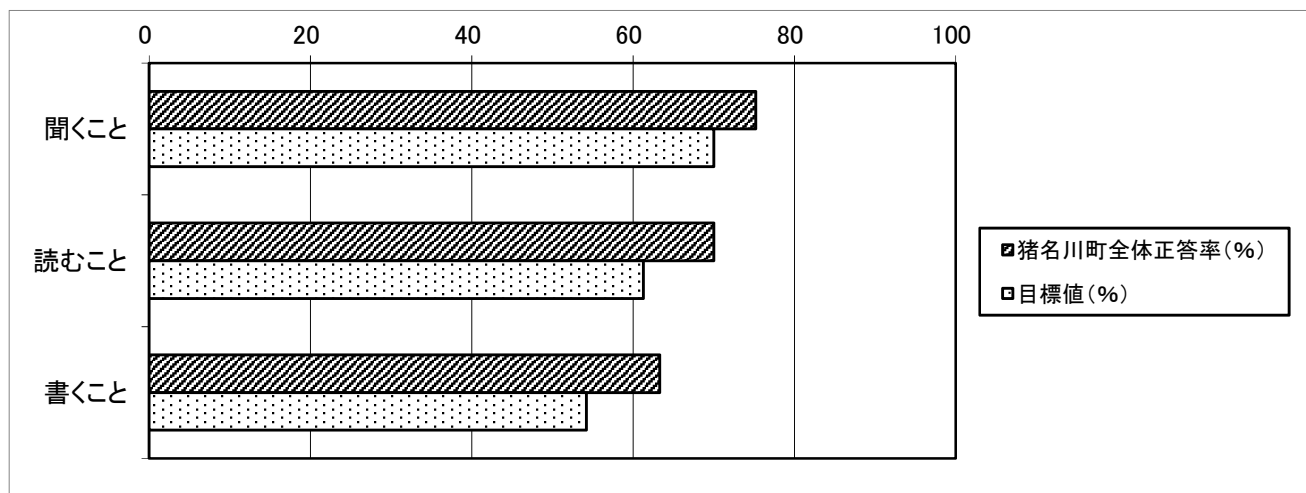
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率(%)	69.0	75.9	51.9
目標値(%)	61.1	68.2	43.5
目標値との差	7.9	7.7	8.4



● 基礎・活用共に目標値を上回っており、たいへん良好な状態にある。

(2) 領域別正答率

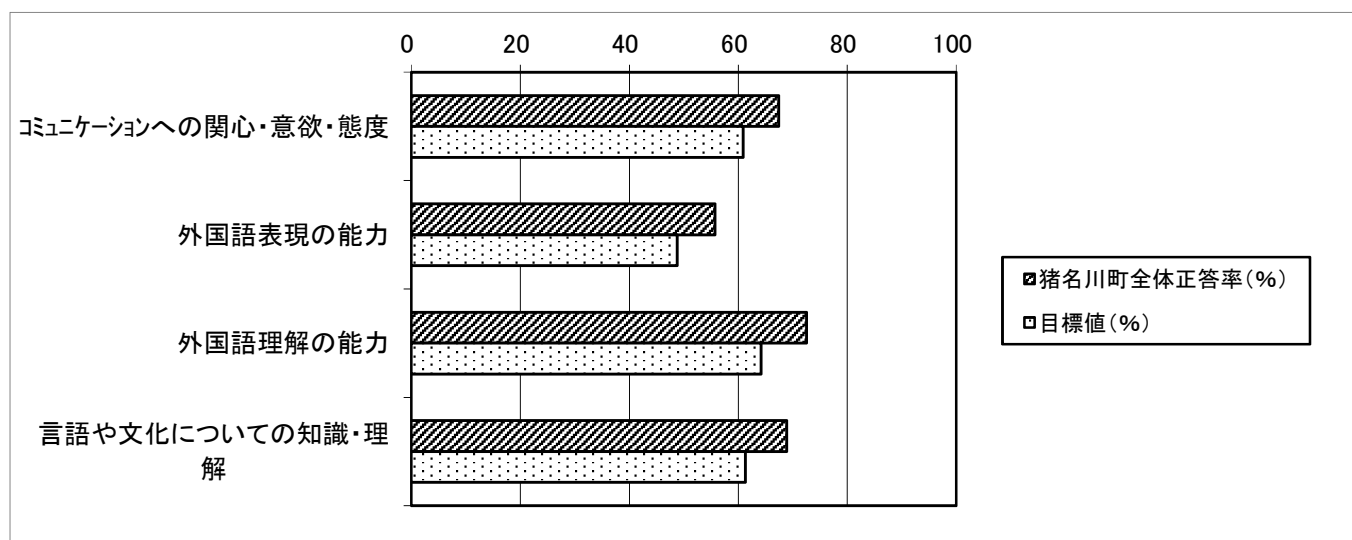
	聞くこと	読むこと	書くこと
猪名川町全体正答率(%)	75.2	70.0	63.3
目標値(%)	70.0	61.3	54.2
目標値との差	5.2	8.7	9.1



● 領域別に見ると、全ての領域で目標値を上回っており、良好である。
しかし、対話文の内容を聞き取るリスニングの問題の正答率が低く、課題がある。

(3) 観点別正答率

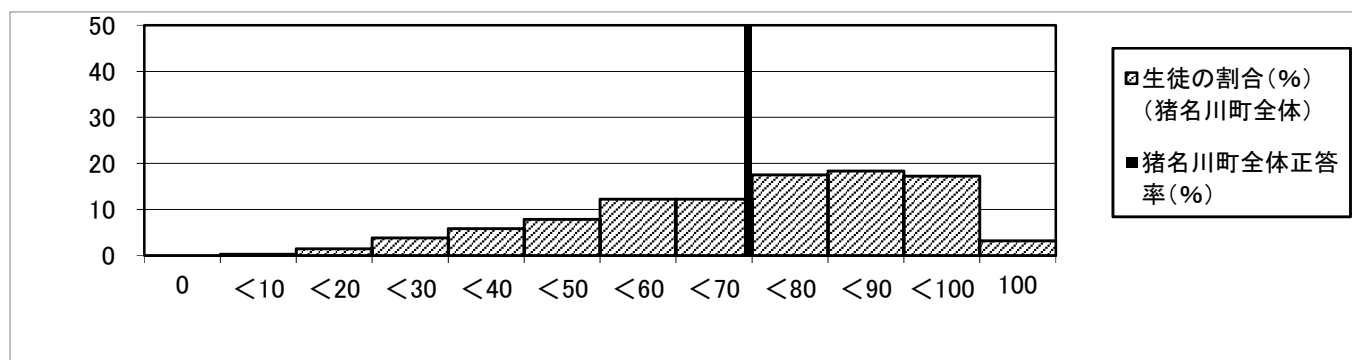
	猪名川町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	67.4	60.9	6.5
外国語表現の能力	55.7	48.8	6.9
外国語理解の能力	72.5	64.2	8.3
言語や文化についての知識・理解	68.9	61.3	7.6



- 観点別に見ると、全ての観点で目標値を上回っており、良好である。中でも「外国語理解の能力」が目標値を大きく上回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.3	1.5	3.8	5.8	7.9	12.2	12.2	17.5	18.4	17.2	3.2



- 町全体で正答率80%以上の生徒が38.8%と、昨年度の28.6%より増加している。一方、正答率が50%未満の生徒も19.3%と、昨年度より増加しており、上位層と下位層の差が広がる傾向にある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問4

【リスニング（対話文の応答）】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	13.4	25.0	▲ 11.6	19.3	▲ 5.9
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料を基に英語で答えることができる。				
対策	聞き取りにライティングの要素を含めた問題形式である。このような問題では、表やグラフを見ながら問題を聞き、理解を進めていく必要があり、まずは問題形式に慣れることが大切である。授業においては、How many classes do we have? などの表現を、クラスルームイングリッシュで使うなど、身近な内容を教師が英語で表現したり、生徒に質問したりすることで、このような問題により身近に取り組みめるようになるであろう。				

大問5(1)④

【語形・語法の知識・理解】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	53.9	70.0	▲ 16.1	68.1	▲ 14.2
出題のねらい	語形・語法を理解することができる。（代名詞の目的格の形）				
対策	人称代名詞の問題であるが、苦手とする生徒も多いため、丁寧に指導することが大切である。教科書や通常のワークブックで、人称代名詞の問題を数多く練習させていく必要がある。大切なことは、答えを書かせる前に、まず音声で言わせることである。それによって、英語の音として頭に残り、I like he.では音声的に違和感があることに気付かせるような指導を繰り返すとよい。				

大問8(4)

【単語の並べ替えによる英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	70.8	70.0	0.8	70.0	0.8
出題のねらい	英文を正しい語順で書くことができる。（Whatで始まる現在進行形の疑問文）				
対策	疑問詞の後が疑問文の形になることを徹底して指導する必要がある。本問の場合は、後に進行形が続き、be動詞が前に出ることになる。また、目的語がwhatになって前に出ていることなど、語順の成り立ちについて説明することも大切である。				

大問9(2)

【場面に応じて書く英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	48.1	45.0	3.1	45.6	2.5
出題のねらい	英語で誘う文を書くことができる。（相手を動物園に誘う）				
対策	人を誘う場合であり、Let's を使う表現が最も平易であろう。また、Can[Will] you ~?という依頼表現を使うことも考えられる。依頼表現には、Can[Will] you ~?の他にもCould you ~? などいくつかの言い方があり、また、May I ~?などの許可表現と混同しないように指導する必要がある。単に文法的な知識を指導するのではなく、具体的な場面を設定して、コミュニケーション活動の中でこれらの表現を使わせながら定着を図ることが大切である。				